

平成 26 年 7 月 7 日

(仮称) 守口市東部エリア地域コミュニティ拠点施設建設基本設計・実施設計等業務
公募型プロポーザルの結果について

平成 26 年 5 月 19 日付守口市公告第 1 号で公示した (仮称) 守口市東部エリア地域コミュニティ拠点施設建設基本設計・実施設計等業務プロポーザルについて、下記のとおり最優秀者及び次点候補者を選定しました。

最優秀者 (業務受託候補者) : 株式会社 アルキービ総合計画事務所 (提案者番号 01)
次点候補者 : 株式会社 汎設計 (提案者番号 02)

1 業務名

(仮称) 守口市東部エリア地域コミュニティ拠点施設建設基本設計・実施設計等業務

2 選定方法

公募型プロポーザル方式

3 選定委員

守口市コンペ・プロポーザル選定委員会 委員名簿

(敬称略)

No.	氏名	現職等	備考
1	斉藤 千鶴	関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究所 教授	
2	高島 修	守口市 都市整備部長	
3	田代 純	大阪工業大学 工学部 空間デザイン学科 特任教授	委員長
4	田中 優	大阪国際大学 グローバルビジネス学部 准教授	
5	橋本 素男	守口市 総務部長	副委員長
6	浜崎 行宏	守口市 健康福祉部長	
7	松 良之	守口市 教育委員会事務局 生涯学習部長	
8	南野 哲廣	守口市 企画財政部長	

4 選定経緯

平成 26 年 5 月 16 日 (仮称) 守口市東部エリア地域コミュニティ拠点施設建設にかかる基本設計・実施設計等業務委託事業者の選定について、守口市コンペ・プロポーザル選定委員会に諮問
審査基準、実施要項等の決定

5 月 19 日 プロポーザルの公示

6 月 9 日 参加表明書等の受付締切 (2 者の応募)

6 月 16 日 技術提案書等の受付締切 (2 者の応募)

- 6月20日 第一次審査にて応募2者から第二次審査対象者2者を選定
- 6月29日 第二次審査にて第二次審査対象者2者から受託候補者1者及び次点候補者1者を選定
- 7月1日 (仮称) 守口市東部エリア地域コミュニティ拠点施設建設にかかる基本設計・実施設計等業務委託事業者の選定について、市長に答申

5 委員会等の開催実績

(1) 第1回選定委員会

- ① 開催日時 平成26年5月16日(金) 午後6時30分から午後8時30分まで
- ② 開催場所 守口市国際交流センター 第2会議室
- ③ 内 容
- ・委員長及び副委員長の選出
 - ・諮問について
 - ・会議の公開について
 - ・委員会の進め方について
 - ・プロポーザル実施要項等について
 - ・評価基準について

(2) 第2回選定委員会

- ① 開催日時 平成26年6月20日(金) 午後6時30分から午後8時まで
- ② 開催場所 守口市教育文化会館 第2会議室
- ③ 内 容
- ・第1回選定委員会の会議録について
 - ・第一次審査について
 - ・プレゼンテーション及びヒアリングについて

(3) 公開プレゼンテーション及びヒアリング

- ① 開催日時 平成26年6月29日(日) 午前10時から午前11時40分まで
- ② 開催場所 守口市市民保健センター 第3会議室
- ③ 内 容
- ・技術提案書に基づくプレゼンテーション及びヒアリング

(4) 第3回選定委員会

- ① 開催日時 平成26年6月29日(日) 午後0時30分から午後1時40分まで
- ② 開催場所 守口市市民保健センター 第2会議室
- ③ 内 容
- ・第2回選定委員会の会議録について
 - ・第二次審査について
 - ・選定結果について

6 審査講評

今回プロポーザルに参加した2者の提案は、共に、前提となる基本計画の内容や建設予定地の立地特性等を十分に踏まえながら独自の特徴と魅力を備えた内容となっており、本業務のプロポーザルに臨む提案者の熱意を感じることができた。短期間にも関わらず、優れた提案を寄せていただいた各者に、選定委員会一同、心から敬意と謝意を表したい。

今回のプロポーザルでは、設計事務所の体制や業務の実施方針を問うとともに、

- ① 多様な利用形態や利用ニーズの変化に柔軟に対応できる施設・整備の計画
- ② 世代間交流や利用者間の相互交流が促進され、多様な活動が生まれる空間づくり
- ③ 地域と連携した防災支援拠点としての施設整備
- ④ 自然環境や自然エネルギーの活用などによるランニングコストの削減や、地域住民による管理運営も想定し、維持管理のしやすさに配慮した施設計画
- ⑤ 短時間で効果的に市民意見を聴取・集約し、基本設計に反映するためのワークショップ等の運営計画
- ⑥ その他独自提案

の6つのテーマを設定し、各テーマに対する提案を求めた。

最優秀者（業務受託候補者）に選定された「株式会社 アルキービ総合計画事務所」（提案者番号01）の提案は、敷地全体を森のイメージで構成し、風の道を意識した施設配置となっている。主要な各室へエントランスロビー側と庭側の両面からアクセスできるようにすることで、接地性や利用者間の繋がりを確保するとともに、将来的なニーズの変化にも対応できるフレキシビリティの高いプランとなっている。建設予定地周辺は戸建住宅が密集する地域であるが、建物周辺に緑を配置するとともに、周辺住宅に対し建物の裏を向けない工夫により、周辺の街並みとも馴染みの良い計画となっている。全体として、明るく開放的な施設イメージは東部エリアの新たなコミュニティの拠点にふさわしい魅力を備えている。

地域の防災支援拠点としては、日常の利用と災害時における利用の機能転換が明確に提案されている点において高い評価を得た一方で、建設予定地周辺は浸水被害の多い地域であることから、水害の際にフラットな構成となっている施設への浸水をいかに防ぐかという技術的な課題も指摘された。

また、選定委員会において特に重視された市民意見の聴取・反映方法については、施設ボリュームの決定、利用動線の確認、主要各室の配置などの各プロセスにおいて、参加者に実際に手を動かしてもらいながら意見を出し合い確認していくワークショップの手法が具体的に示されていた。

なお、最優秀者として選定するにあたり、選定委員からは、非常に短期間での事業遂行が求められる中で、提案内容の実現可能性や、提案者の組織としての機動性への懸念も示された。提案者には、今後の検討過程において、指摘された課題や懸念を払拭する積極的な取り組みを期待するとともに、担当課においても、今回の提案の趣旨が十分に活かされるよう、意を配して事業にあたられたい。

次点となった「株式会社 汎設計」(提案者番号 02) の提案は、1階に通り抜け可能なフリースペースを設け、多方向からのアプローチのしやすさと親しみやすさを創出するとともに、災害時に避難場所となるフロアの確保を重視し、体育室などを2階に配置した施設構成である。東部エリアの地域特性を多角的に調査・分析し、防災面でのリスクを踏まえた上で提案となっている点において委員の評価を得た一方で、建設コストを不安視する意見や、2階に体育室を配置することにより日常のアクセス性や利用利便性が損なわれていないか、1階部分の開放的なイメージが十分に実現できるかといった疑問が提起された。周辺の街並みとの関係においても、ボリュームのある施設が周辺住宅に圧迫感を与える懸念が残る。

また、提案者の多様な実務実績や事業の実施体制は信頼性が高いものの、市民意見の聴取・反映方法の提案についてはやや具体性を欠くとの意見も出された。